



発行人 伊方町 編集所 伊方町 印刷所 伊方町 電話 保内局 276番

1月の税金 町民健康保険税 1月分 国民税 1月分 年末日

ことしの 実施した事業・実施予定の事業 全部の事業費 およそ3,200万円

いよいよ12月 末を迎え、昭和34年度も、役場の会計年 度、四分の三がすぎることになった。町が行ういろいろな事業も、そのおかげがまじり、まじりまじりになった。

事業名	起債額	起債率	備考
豊之浦漁港修築	3,400千円	1,000千円	(確定)
淡浦港湾局部改良	3,000	1,000	(確定)
向簡易上水道	2,500	1,000	(確定)
向簡易土木災害復旧	4,573	1,000	(確定)
現年度土木災害復旧	5,480	1,800	(未決定)
二見小学校増築	2,080	2,000	(未決定)
消防自動車設置	1,700	1,000	(未決定)

(注) 現年度土木災害復旧は、川永田防波堤と九町堤防。過年度土木災害復旧は、その他の土木災害復旧

ことしの主な事業

普通建設事業	総事業費
豊之浦漁港修築	3,400千円(実施中)
淡浦港湾局部改良	3,000 (実施中)
地盤変動対策(仁田之浜護岸)	804 (実施中)
町道役場前線改良	250 (見込)
町道大浜第一臨港線改良	500 (見込)
二見小学校増築	2,080 (実施中)
消防自動車設置	1,700 (実施中)
向簡易上水道新設	2,500 (実施中)

災害復旧事業	事業費
鳥津漁港護岸復旧	688 (完工)
九町越漁港防波堤復旧	623 (実施中)
大或漁港護岸復旧	2,083 (実施中)
町道淡浦河内線復旧	236 (完工)
町道伊方宮内線復旧	223 (実施中)
川永田防波堤復旧	4,960 (見込)
九町堤防復旧	520 (見込)

失業対策事業	事業費
町道川永田有寿線新設	3,111 (実施中)
町道加周古屋敷線改良	1,833 (実施中)
九町漁港物揚場新設	3,268 (実施中)

普通建設事業では、ことし第一期工事の完了する豊之浦漁港修築、ことしを初年度として三ヶ年計画で実施する淡浦港湾局部改良(岸壁築造)、緊急事態やむを得ず行う二見小学校三教室増築、まだお目見えしていないが、町内の消防自動車の購入、共同井戸を唯一の飲料水としていた向部落

の簡易上水道の新設などが主なるものである。災害復旧事業は、過年度分についてはことしで一応全部終了、現年度分については田之浦防波堤復旧二一、九町堤防復旧三三、川永田護岸根固復旧一、二が来年度以降に繰越されることになりました。

失業対策事業は、左表のとおり三ヶ所で行なっているが、九町漁港物揚場については、町見農協カー(土砂運搬用二輪車)一台を購入、一台を借り入れ二台を以て機動力を発揮、その完工が急がれています。

国や県の補助金は、その大部分が決定しています。重要な財源の一つである起債については、いまだ全部は決定していません。その状況は右の表のとおりです。未決定分の起債については、その確保のため最後まで努力が払われています。



農家一年の努力を集め 農業祭開く

例年行事として開かれる、町農業(町見)祭は、伊方地区が十一月二十八日から二日間、町見地区が、十二月六日の一日間と、ことしも盛大に繰り届けられました。

伊方は、農協、役場、中学校と三会場に別れ、町見は中学校一つに会場を集中して開かれました。

農産物などの品評会は、出品総数伊方が九四二点、町見が五一四点で、一等賞を受賞された方々は次のとおりです。

【伊方】

- 一果実
 - ミカン 谷藤 勤市 大浜
 - 夏柑 篠上 清光 川永田
 - 一雑穀
 - 菜豆 菊池 浦王 中之浜
 - 大豆 兵頭 義雄 中浦
 - 一野菜
 - 大根 藤堂若太郎 河内
 - カブ 渡辺 義則 河内
 - ゴボウ 福田 弘 川永田
 - ネギ 藤堂若太郎 河内
 - 甘藷 山口フクミ 河内
 - 甘藷 阿部 恒敏 川永田
 - 加工
 - 味噌 政木 俊子 淡浦
 - 漬物 高門キヌ子 川永田

【町見】

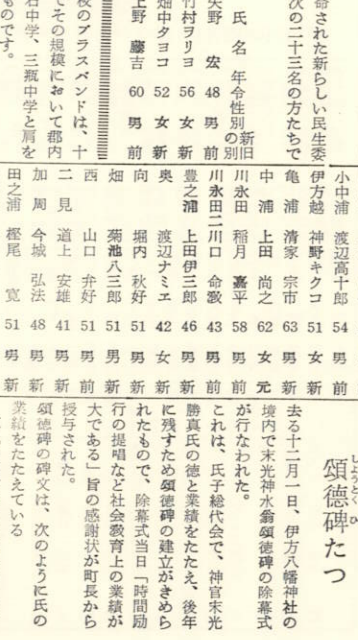
- 一果実
 - 夏柑 池田五九男 古屋敷
 - ミカン 井上 常久 須賀
 - 一穀類
 - 小麦 平井 敏夫 加周
 - 大豆 井上 平八 久保
 - 一野菜
 - 白根 山口 武美 畑
 - 大根 渡辺 一満 奥
 - 加工
 - 加工 大池サナエ 古屋敷
 - 漬物 大池サナエ 古屋敷

プラスバンド(町中)など参加 町内学校音楽会開く

去る十一月四日、伊方小学校に、約七百人の児童、生徒が集り、第三回の町内小中学校音楽会が開かれました。第一部は合唱で、町内八校全部が参加し、第二部は合奏で、伊方中学校を除く七校が参加しました。

町内全部の学校が集まって音楽会を開くことは、郡内でも、そう数多くなく、また、豊之浦小学校の全校生徒による合奏、二十余万円を投じて編成された町見中学校のプラスバンドなども参加し、いろいろと盛りだくさんでした。

町農業祭のアルバム



町農業祭の一翼をなすため、新しい民生委員さん、二十三名、対する厚生大臣から命令の伝達式が行なわれました。

これは、昭和三十一年十二月に任命された民生委員さんの任期が、この十一月末で終わったため、新しい民生委員さんが十一月一日付で任命することになったためです。

民生委員は、児童委員もかねておられ、生活保護関係をはじめとし、社会福祉、児童福祉などあらゆる町見中学校のプラスバンドは、十五人編成でその規模において郡内でも川之石中学、三瓶中学と肩をならべます。

この音楽会は、出演する児童だけでなく、おおよそ七百人もあり、会場の収容力の関係上、参加しない児童に、公開できませんでしたが、音楽会の内容が充実するほど、またこの音楽会の意義が大きいものであると見られます。

音楽会が終わったあと、宮内中学校の阿部淳敏先生の講評があり、一つ一つについて歌いや演奏のしかたの指導がありました。

写真は、音楽会で演奏する、町見中学校のプラスバンド

改良カマドの説明に聞かせる(伊方)

どっぴり出した人出(伊方)

農産物品評会場にて(町見)

みんぱに見入るおとし寄(町見)

燗火には農産へ(町見)

神主さんの 頌徳碑たつ

去る十二月一日、伊方八幡神社の境内で末光神水翁頌徳碑の除幕式が行なわれた。

これは、氏子総代会で、神宮末光勝真氏の徳と業績をたたえ、後年に残すため頌徳碑の建立がきめられたもので、除幕式当日「時間短縮」の提唱など社会教育上の業績が大である一旨の感謝状が町長から授与された。

頌徳碑の碑文は、次のように氏の業績をたたえている。

末光勝真翁は神興奉仕四十年、其の間、御神徳の祭揚に専念一面社会福祉、郷土文化向上に寄与すること偉大、依つて氏子総代会の決議に基きその功績を偲びて(のびて)後昆(子孫の意)に伝うるためこの碑を建つ

昭和三十四年 十二月一日 氏子中 上野 眞子 末光勝真氏の業績をたたえる頌徳碑

